

# 進路指導実践を磨く!

## 目指すは「総合的な力」の獲得。 専門分野の学びを深め 自分を対外的にアピール。 学力アップでワンランク上へ

開校10年で完成した3年間を通じたキャリア教育。  
その充実した取り組み内容と次なる課題への挑戦をご紹介します。

取材・文 / 永井ミカ

### 課題の整理

#### 背景

- 充実したキャリア教育と基礎学力向上の両立の難しさ
- 大学入試の多様化による進路指導の難しさ
- 入試改革への対応をどのようにしていくか

#### 実践内容

- 課題研究を前倒して、推薦・AO・一般入試に備える
- 希望者による進路実現チームに講習を実施する

### キャリア教育と基礎学力 両輪で力をつけたい

キャリア教育を軸とした3年間の主体的な学びを通じて、生徒が興味関心の高い分野について専門的な知識を得たり、プレゼン力やコミュニケーション力を高め、推薦入試やAO入試で実績を上げるケースが増えている。

しかし、キャリア教育に力を入れる学校では、基礎学力向上をどのようにつけていくかが課題だと語る学校も少なくない。本来なら、キャリア教育で身に付く力と一般的な学力は、両輪として相互に高め合いながら向上していくのが理想だ。しかし、時間的な制約や生徒間の学力差などの要因で、なかなかままならない現状もある。創立11年目の葛飾総合高校は、こういった課題にどう対応しているのだろうか。

### 葛飾総合高校（東京・都立）

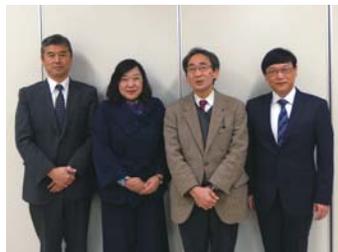
#### 主体的に自分で進路を 見つける生徒を育てる

東京都立葛飾総合高校は2007年に東京都東部の総合学科高校として開校。「生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し希望進路を実現する」学校を目指してきた。2年次からは国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの4系列に分かれ、生徒は念入りに作り上げた「自分だけの時間割」に沿って授業を受ける。

キャリア教育は3年間を通して実施。職業人インタビューも企業訪問もすべて自力でアポ取りから始めるため、生徒は徹底的に鍛えられる。3年次には一人ひとりが課題研究を2万字の論文にまとめ、発表して集大成とする。「開校10年でキャリア教育は一応の完成をみたと思います」と穴沢 努副校長。開校当初は生活指導に時間をとられ進路指導がままならないこともあったが、現在では「力がつく学校」「成長できる学校」として地域で認められるようになり、兄弟姉妹の入学者も増えた。

3年間のキャリア教育は「キャリアコアタイム」として実施。これに「学力向上」と「進路指導」を加え、3つの柱としてまとめたものを「キャリア

副校長  
穴沢 努先生(左)  
総合学科推進部主任  
奥田 由美子先生(中左)  
総合学科推進部(元進路指導部)主任  
関本 謙治先生(中右)  
進路指導部主任  
内山 正雄先生(右)

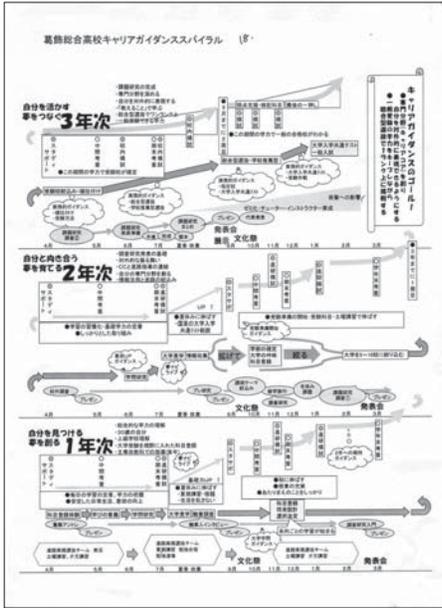


#### School Data

2007年創立 / 総合学科 / 生徒数704人(男子225人・女子479人) / 進路状況(2017年3月実績) 大学進学118人、短大進学10人、専各進学77人、就職8人、その他12人

ガイダンススパイラル」(P 42 図1)と呼ぶ。開校以来ほぼ変わらない流れだが、11年目の改革で、この年の3年次よりスケジュールを全体的に前倒しすることにした。課題研究が推薦・AO入試に効果を発揮することが増え、ワンランク上の学校に合格する生徒も出てきたため、12月にまとめた課題研究を、3年次の夏にはまとめるようにしたのである。これにより一般受験向けの学習にも余裕ができることになり、ますます進路実現を図る生徒が増える勢いだ。

図1 キャリアガイダンススパイラル ダウンロード可



11年かけて凝縮された、葛飾総合高校の学びの軸となる3年間の流れの図

キャリア教育

まとめとプレゼンを繰り返し  
2万字の論文へ

同校のキャリア教育は3年間の大きな流れの中で実施されている。まず、1年次の4月に「葛飾アントレ」という宿泊研修を実施。同校が目指す「総合的な学力（対人能力＋意欲＋総合思考）」の基盤を作るのが目的だ。事業所研修やインタビューを行いグループでまとめてプレゼンする。入学後すぐにこの研修を行い、以後、3年次まで調べたり学んだりしたことをまとめ、プレゼンするという流れを繰り返し、総合的な学力をつけていく。

「葛飾アントレ」は実は入学前から始まっている。入学前の説明会で生徒には「自己の主張を考えよう」という課題が出される。生徒は「自分の人生を切り開くために、高校3年間ですべきことは何か」をワークシートに沿って入学前に考え記入し「葛飾アントレ」に持ち寄るのだ。「入学前

課題を取り入れたのはここ数年です」と総合学科推進部の関本謙治先生。「以前は宿泊研修の最初でブレインストーミングやKJ法を行っていたのですが、するとその後に考える生徒の自己の主張が似てきてしまう。素の状態では本気で高校時代にやりたいことを考えてはしくて、入学前課題にしました」

その後のキャリア教育の授業は「キャリアアコアタイム（CC）」と名付けられている。1年次（CC1）、メインとなるのは2年次の科目選択。適性検査や学問研究を経て、時間をかけて自分だけの時間割を作り上げていく。履修したい科目があれば、それを担当する先生のところに行き、自分は何を目標にしている、そのために何を勉強したいのかをプレゼンしてサインをもらう。こうして自分で考えた時間割を担任に提出。それを総合学科推進部と教務部が確認、フィードバックする。

系列の科目群の総合選択科目には基礎科目と深化科目が、自由選択科目には基礎科目と発展科目がある。同校がキャリアガイダンスのゴールとして定めている「専門分野（キャリアアコア）を創り、自分を対外的に表現できるようにする」のために、一つの科目を深く学ぶのが特徴だ。三者面談も交えて、自分の将来とつながる時間割を確定させる。1年次ではほかに、自分でアポ取りから始める

図2 「キャリアガイダンススパイラル」(図1)の3つの柱の年間スケジュール(抜粋)

	総合的な学力※の向上			進路指導		基礎学力の向上																																																													
	総合学科推進部 主導			進路指導部 主導		有志																																																													
4月	1年次・CC1(科目選択学習) 2年次・CC2(課題研究) 3年次・CC3(課題研究)	1年次: 葛飾アントレ 2年次: 校外学習・企業訪問 3年次: 面接大会	3年次: 実務的ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																																																														
5月								1年次: 科目登録予備調査	3年次: 実務的ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																																																								
6月														3年次: 課題研究発表会 葛希祭(地域・外部連携)	2年次: 意欲アップガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																																																		
7月																				1年次: 科目登録本調査 教科発表会	3年次: 実務的ガイダンス オープンキャンパス参加	土曜講習 夏期講習(前期)	ベンキョウ倶楽部																																												
8月																										2年次: 学修旅行(調査研究)	1・2年次: 大学見学	夏期講習(後期) 勉強合宿(1・2年次)	ベンキョウ倶楽部																																						
9月																																1・2年次: 学習成果発表会	3年次: 実務的ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																																
10月																																						1年次: 大学学問ガイダンス	2年次: 受験準備開始ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																										
11月																																												3年次: 実務的ガイダンス	1年次: 大学学問ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部																				
12月																																																		1年次: 進路ガイダンス	3年次: 実務的ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部														
1月																																																								1年次: 進路ガイダンス	1年次: 大学学問ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部								
2月																																																														1年次: 進路ガイダンス	3年次: 実務的ガイダンス	土曜講習	ベンキョウ倶楽部		
3月																																																																			

※総合的な学力(葛総力)=コミュニケーション力・プレゼンテーション力・課題対応力・情報収集と分析力・思考力・判断力・表現力・主体性・積極性・協働性など  
※CC=キャリアアコアタイム(1年次:「産業社会と人間」、2・3年次「総合的な学習の時間」)※各行事の関連は図1を参照。

職業人インタビューや課題研究入門などを実施する。  
2年次(C C 2)では課題研究に向けての校外調査やそれに続く発表、修学旅行、同時に大学の研究や受験準備を始める。修学旅行は関西方面で、ここでも現地の役所や事業所、美術館などに調査に向

く。東京と関西を比較したりすることで調査にも深みが増す。  
3年次(C C 3)ではいよいよ課題研究を本格的にスタート。調査を重ね、最終的には2万字の論文にする。「外国人と日本のアニメ」「チーム医療」「現代社会における児童問題」「菌の視点から見た川と



2泊3日の新入生宿泊研修「葛飾アントレ」。グループ内個人プレゼンや仮説協議、事業所調べを経て、事業所研修・インタビューへ。

2年次の校外学習。系列と課題研究のスタートとして実施。グループで訪問場所を決め、アポをとりインタビューなどをさせてもらう。



3年次の課題研究発表会。系列に分かれ、一人ひとりが10分間のプレゼンを行う。1年生や2年生を前に成果を披露する。

図3 学力向上の仕組みの1日の流れ

朝	朝学習	・小テストなど、積み重ねで基礎学力向上
		(朝のショートホームルーム)
8:45~ 15:10	授業	・ノーチャイムで自己管理 ・少人数制授業 ・自分だけの時間割(2・3年次)
		(帰りのショートホームルーム)
15:15~ 15:40	ベンキョウ倶楽部(部活動) ベンキョウ倶楽部特訓講座	・20分の授業+a(先生による指導) ・3年次は時間延長可能
15:40~	部活動	
~19:30	夜の自習室	・私の宿題タイムとして自立的に勉強に取り組める環境を用意

開校時から言い続けているのは「総合的な学力」の獲得。そして、生徒が自分で見つける進路の実現。「そのためには軸はブラさず、しかしよりよい環境を整えながら、さらに地域から信頼を得られる学校にしていきたいと考えています」(穴沢副校長)

開校時から言い続けているのは「総合的な学力」の獲得。そして、生徒が自分で見つける進路の実現。「そのためには軸はブラさず、しかしよりよい環境を整えながら、さらに地域から信頼を得られる学校にしていきたいと考えています」(穴沢副校長)

は『プログラミング言語とサーバ構築についての研究』など、テーマは多岐に渡る。最後は発表会で、1人10分間、原稿を見ずにプレゼンを行う。

「こういう学びで生徒は迷い、たくさん揺れます。揺れば揺れるほど進路に対する気持ちは固まっています。AO入試を受けた生徒が、よく課題に出される3000字、4000字のレポートは簡単に感じると思うことがあります。これだけのことをやってのけた生徒には確実に総合的な学力がつかます」と総合学科推進部主任の奥田由美子先生。今年度の3年生から発表は9月になり、推薦・AO入試にも直接的に役立つし、一般受験を目指す生徒もそちらの勉強に集中できる。

学力向上

希望者向け講習でさまざまな進路に対応

同校のキャリアガイダンスのゴールの2つ目は「一般受験の学力をキープしながら、総合型選抜でワンランク上に挑戦する」。そして、キャリアガイダンススバイラルの3つの柱にも「基礎学力の向上」がある。

全員が大学進学を目指すわけではないので、これまで希望者向けに講習などを行ってきた。数年前に希望者による進路実現チームも立ち上げ土曜講習や夏期講習を実施。この時間は部活動禁止のため、部活動と両立したい生徒も気兼ねなく参加することができた。しかし、最初は希望して講習を受けている生徒も、徐々

に出席率が落ちていくというのが例年のパターン。そこをどうするのかは、長年の課題の一つだった。

対策の一つとして、まず1年次でとった希望を2年次でとり直し、コース継続希望者だけが残るようにした。翌年は1年次に希望者を募るときから、「絶対に途中で投げ出さない」と約束できる生徒のみの募集に変更。徐々に人数を狭める方向に舵を切り、講習の参加者や内容を向上させようと工夫しているところである。

さらに有志の教員による「ベンキョウ倶楽部」では、主に「一般受験を目指す生徒の希望」に込めている。

18年3月の進路結果では、一般受験での合格実績が上がり、学力向上に力を入

成果と課題

AO、新入試を見据えて体験活動を重視

科目選択や課題研究をはじめ、この学校の生徒は自分で考えながら学ばない前に進めない。通常の教科でもグループ学習やプレゼンが行われ、「主体性が育つ」「成長が見える」と、保護者などから評価も受けている。中学生に向けた学校公開でも生徒が主役で、自分たちの学校を懸命にPR・説明するし、文化祭などの行事にも熱心に取り組む生徒が多い。

進路指導部主任で同校に赴任して2年目の内山正雄先生は、「真面目な子が多い印象です。けれども、目の前ものをひとつずつこなすのに「生懸命」になりすぎて、勉強が最後になってしまう生徒もいます。例えば、現在のように数学の講習という形ではなく、看護系向けの数学、大学の理系の数学というように、進路希望で分けて効率的に勉強できるシステムを構築したい。面接も得意で推薦・AOで力が発揮できる生徒が育っていますが、今後の入試改革では推薦・AOでもさらなる学力が求められます。進路指導部でもしっかりと対応していきたい」と言う。

れてきた効果が出始めている。